

## 4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等



成人の市中肺炎の患者さまの人数を日本呼吸器学会 成人市中肺炎診断ガイドライン重症度分類 (A-DROP分類)に沿って集計しました。

\* 市中肺炎とは、普段の社会生活の中でかかる肺炎のことです。

	患者数	割合 (%)	平均在院日数	平均年齢
軽症	72	33.03%	8.49	52.82
中等度	133	61.01%	10.25	79.81
重症	11	5.05%	14.82	77.73
超重症	2	0.92%	12.00	91.00
不明	0	0.00%	0.00	0.00

定義	入院契機病名および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(ICD-10コード：J13～J18\$)に限定しています。 * 成人肺炎の指標のため、小児肺炎も集計対象外
解説	患者数が最も多いのが、中等度です。軽症の患者様の平均年齢が50代に対し、中等度～超重症の患者様の平均年齢が80代で後期高齢の年齢層になっております。 成人市中肺炎診断ガイドラインでは、軽症の患者様は外来治療となっており、入院加療の適応ではないことがあります。軽症の患者様であっても、患者様の基礎疾患によっては、重症化もあり得るため、入院適応となる場合もあります。